

令和5年度 久御山町立こども園経営計画及び評価シート

久御山町立とうずみこども園 園長 村田 礼子

こども園の現状		保育・教育目標	経営方針				
<ul style="list-style-type: none"> ・明るく、人懐っこい子どもが多い。 ・自分の思いを素直に表現することが苦手な子どももいる。 ・保護者の年齢層が広く、様々な子育ての方針がみられる。 ・外国籍の子どもの入園が増えてきている。 		健康でたくましく心豊かな子どもに育てる ①仲良く元気に遊ぶ子ども ②素直で思いやりのある子ども ③自分で考え行動しようとする子ども ④自分の思いを豊かに表現しようとする子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・保護者と信頼関係を築き、安心安全な園作りを目指す。 ・一人一人の子どもの思いに寄り添い、丁寧に関わり、内面理解に努める。 ・職員の保育力・教育力の向上 ・久御山学園の基本方針に沿って校区の連携を密にし、就学前教育を充実させる。 				
こども園経営の重点		成果と課題					
乳児保育	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着関係を築き、安心安全に過ごす中で自己表出できるようにする。 ・基本的な生活習慣の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの思いを受け止め、保育をしてきたが、保護者に園側の思いが伝わらなかったり、同じ思いで子どもを見ることができないことがあった。 ・全般的に発達がゆっくりである。そのことを踏まえて、遊びの中で体をしっかり動かしたり、手指を使って遊ぶ環境を工夫していたが、なかなか力が積み上がっていないことも多かった。今後も保護者に協力いただき、生活習慣の確立を目指していきたい。 					
幼児保育・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力の育成。 ・地域の人や小中学校との関わりを通して豊かな心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信のない様子が見られたが、間違っても大丈夫ということ伝えたり、繰り返し挑戦できる環境を構成することで、自ら取り組みできたことが達成感になり、子どもたちの自信に繋がっていった。 ・小中高校生との関わりが増え、様々な経験を通して、自分の思いを表出することができた。 ・行事前になると、時間的に余裕がなくなる職員の姿がみられた。何を大切に育てたいのかを明確にして、見通しをもって保育を計画的に進めることが今後の課題だと思われる。 					
評価領域	重点目標（観点別）		具体的方策		評価		
健康	・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。		・保育者や友だちと一緒に体を動かす遊びを通して充実感が得られるようにする。 ・見通しを持って遊びや活動に取り組む。		3	3	4
人間関係	・身近な人と信頼関係を築き、自分の力を発揮する。		・一人一人の子どもがその子らしく自分の力を発揮する。 ・小中学校や地域の人など様々な人との関わりを通して人と関わる力を育む。		3	3	4
環境	・身近な環境に親しみ、興味や関心をもつ。		・「なんだろう」「おもしろそう」と思えるような環境構成をする。 ・タイミングを見逃さず、その季節ならではの自然に触れられるようにする。		3	3	3
言葉	・自分の気持ちや思いを言葉で伝え合う喜びを感じる。		・保育者が様々な言葉を使い話しかけたり、絵本の読み聞かせを通して語彙数を増やす。 ・言葉で表現できる楽しさを感じる。		2	3	3
表現	・感じたことや考えたことを自分なりに表現する。		・自分で感じたり考えたりしながら安心して表現できる雰囲気をつくる。 ・環境を通して自分なりに様々な表現ができるようにする。		2	3	3
年間評価	1 学期		2 学期		3 学期		
	新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症となり、経験させてあげたい遊びを取り入れることができた。		コロナ前の行事のあり方を経験していない職員が多くいたため、ミーティング等を通して声を掛け合った。		1年間の見通しを持ち、子どもの様子を見ながら保育を進めていくことが課題である。		